

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190502773		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・中の島 (すずらん館)		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	令和 6年 2月 13日	評価結果市町村受理日	令和 6年 3月 28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190502773-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和 6年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄までは徒歩5分程度でバス停も近く、駐車場もあるので家族や友人が来訪しやすい環境にある。周囲にはスーパーや神社・公園があり、コロナ禍の前は時々散歩に出かけたり神社のお祭り見物や花見に出かける等、近隣の住民と触れ合う機会があった。現在は面会制限は設けておらず、事前に電話連絡さえしてもらえば気軽に面会でき、正月やお盆等希望のある際には自宅に戻りご家族と食事をしたり、外泊することもできる。今現在は外出事はできていないが、毎月1回以上は様々な出前を取ったり、職員が特別メニューを考え入居者の目の前で調理をしたり(お好み焼き、すき焼き等)、生活に彩を添えられるよう工夫している。誕生日はひと月に何人いてもまとめてお祝いするのではなく、1人ずつ誕生日当日に誕生会を開催している。家族には月1回担当者が写真入りの手紙を送付し、最近の様子を伝えている。また、毎月ユニット会議を行い、入居者の状態の変化やケアの問題点等を話し合う機会を設けている。実習生も積極的に受け入れ、歯科衛生士や保佐人の定期訪問など職員や家族以外とも関わりを持てるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建ての1階には創生事業団事業部が有り、2階には8名、3階に7名が現在、入居している。創生会グループは企業提携経営を掲げて人材育成、事業所運営、経営のノウハウ等を共有し、全国に展開している。道内エリアでは38事業所を有し、札幌市内には10ヶ所以上のグループホームを運営している。コロナ禍以前には町内会と合同で敬老会や事業所の駐車場を利用してバーベキューを開催したり、夏祭りや避難訓練、町内会行事等に参加するなど良好な関係を継続しており、今後の活動を楽しみにしている。誕生会にはケーキで祝ったり、行事食では職員による手作りの料理提供や出前など利用者の希望を取り入れている。家族からの看取り要望にも対応しており、本人・家族の意向を尊重し、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グッドケア・中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」と掲げ、スタッフルームの目につくところに掲示し、ユニット会議の際に唱和し確認するようにしている。	開設時の理念「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」をスタッフルームに掲示し、スタッフ会議等で唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍なので現在はできていないが、以前は町内のゴミ拾いや花植え、公園の草取りや清掃等に入居者と共に参加し、ホームの避難訓練に町内の方にも参加してもらうことで、顔なじみになり地域の一員として関係性を作っている。	町内会に加入し、コロナ禍以前は町内の清掃、花植え、公園内の除草や清掃等に入居者と共に参加していたが現在は運営推進会議のメンバーである町内会長から町内の情報を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、町内行事等で入居者と触れ合う機会を作り、認知症の方について知ってもらい日常どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月の活動報告や外部評価の結果、ホーム内の状況や出来事を報告している。その内容は議事録にまとめ、参加していないご家族にも送付し、情報共有している。面会の際等、折に触れ意見がないか伺っている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を町内会長、地域包括支援センター職員、家族が参加して開催している。活動報告や事故・ヒヤリハット、行事などの報告の他に認知症や口腔ケア、マッサージについてのケアに関連したテーマを学んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの職員に参加してもらい、ホームのケアや取り組みを伝えている。生活保護の方については保護課の担当者に報告や相談もしている。	市担当者には事故報告や手続き関係、事業所内の人事変更等を報告している。生活保護課担当者には本人の状況や入院等の報告や相談をするなど日頃から連絡を取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束を行うことがないよう日々のケアやグレーゾーンの見直しを行っている。併せて年に2回、身体拘束適正化研修も職員全員で身体拘束防止に取り組んでいる。身体拘束の11項目をスタッフルームに掲げ、目に触れるようにしている。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、併せて年に2回の研修を行い、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者に対する虐待防止・身体拘束の適正化研修を順番に受講し、改めて虐待とは何かを学び虐待に繋がるケアになっていないか確認している。			

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。必要時には家族や保護課担当者等と相談し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要な部分は特に時間をかけて読み上げ説明し、随時わからないことは質問してもらっている。又、改定がある場合は文書と口頭で説明し理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望はその都度聞き、ケアプランに取り入れている。契約時に苦情申し立て機関の周知も行い、職員に言いづらい場合はそちらに連絡できるよう案内している。	利用者や家族からの意見や要望は日常業務の中、家族の来訪時や連絡の際等に、玄関入口に意見箱を設置するなどして把握して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や運営推進会議・職員間の連絡帳等から職員の意見を集約し、管理者は2か月に1回の管理者会議で会社側に伝えている。	管理者は毎月のユニット会議や業務を通じて、スタッフ共用連絡帳等から職員意見などを把握して管理者会議で会社側に伝え運営に反映させている。行事や運営、通信発行等を担当制にして職員全員が関われる機会を設け意見や提案を出せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の勤務姿勢や実績が反映される。また、自己評価を行い更に管理者からの評価と比べることによって、本人の状態を把握できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し、休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。特に認知症グループホーム協会主催の虐待防止研修や高齢者の権利擁護研修、認知症の理解研修等は積極的に参加してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はまだ再開できていないが、以前は札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、豊平区在宅ケア連絡会・豊平区ケアマネジャー研修会等に参加することにより、同業者との情報交換や協力体制を作っていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行いどのように生活していきたいかヒヤリングしている。本人が答えられない場合などはご家族にどのような生活をしていたか、好きなことなど生活習慣のヒヤリングを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを検討する前にご家族の要望などを聞きサービス内容に取り入れることを検討している。その後は来訪時にご本人の様子等を話し、その都度要望に答えられるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を最大限考慮し、本当に必要な支援内容を色々なサービスを含めて検討し、提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態に合わせ現状何ができるかを検討し、職員と一緒に食器拭きや洗濯物を畳むなど協力してできることを行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子などを報告し・相談し、共に本人をどのように支えていけるかを検討することに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友達などが来るときなど忘れてしまわないようにスケジュールを聞き、来訪があることを本人に伝えている。また必要ごとに電話の取次ぎを行っている。	現在、外出制限なしで家族の協力を得て墓参りや自宅訪問を支援している。2ヶ月に1度の理美容訪問で馴染みの人との関係継続を支援している。散歩や買い物は日常的には行っていないが友人の来訪などは制限なしで対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やドリル、パズルなどをする機会を提供しお互い相談しながら答えを見つけるなどの場を作っている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や要望に対応できるよう配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情、仕草、言動等から入居者の思いを汲み取るよう努め、本人の意向を尊重している。	入居時に家族から本人の意向等を聞いているが高齢が進むなどして表情や仕草、言動等から本人の思いを汲み取り連絡帳などで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や、生活環境をご家族や本人に聞き、資料等も活用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり個別にその日1日の状態や、様子をケース記録に詳細に記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見を伺い、訪問看護師や職員の意見も取り入れ、カンファレンスを行い、希望に沿った介護計画を作成している。	管理者と担当者が中心に本人や家族の要望、スタッフ、訪問看護師から意見などを聞いて会議を行い希望に添った介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い6ヶ月に1回、入居後は1～2ヶ月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族対応記録、医療対応記録に業務前に必ず目を通し、業務日報や職員間の連絡帳も活用し、情報の把握、共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の来訪が難しい場合は、買い物代行をしたり、その時に必要な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れや町内会の清掃や花壇の花植えや中の島神社のお祭りに参加し交流を図っていたが、コロナの影響で中止になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用できるが、希望があれば元々のかかりつけ医の受診継続もできる。歯科の訪問診療も受けられる。個別に医療記録を作り職員全員で情報の共有をしている。	希望によりかかりつけ医の継続受診を支援している。協力医による月2回、歯科医の都度の訪問診療を行っている。週1回の看護師による健康管理の他に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。薬局とは24時間365日対応で連携している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護があり、入居者の状況や変化を伝え相談している。薬の変更があった場合も伝えている。看護記録を回覧し職員間で情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、ホームでの生活状況、排泄、食事、入浴などの介助状況を伝えている。入院中の状態退院の目的を確認相談し、病院との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針について説明し、確認サインを得ている。状況の変化がある場合も改めて確認をする。看取りを希望する場合は訪問診療医を交え家族や職員と話し合い行いできるだけ希望に沿うよう支援している。	入居時に書面で「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。医師の診断を基に看取りの段階で胃ろう等の延命措置の希望について家族、職員が話し合い、家族の希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応について内部研修を行い確認している。講師を招きAED講習を職員全員が受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害を想定した避難訓練を行っている。非常用品を備蓄リストを作成し、定期的に点検確認している。カセットガス暖房を用意している。	昨年5月に夜間想定火災避難訓練、11月に地震による日中想定火災避難訓練を実施している。11月に水害想定避難訓練も実施している。飲料水などの備蓄品をリスト管理して定期的に点検確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の性格を理解し時間帯や日課を見ながら声かけを行っている。服薬やトイレ誘導など拒否があれば無理をせず、時間を置いて再度声かけをしている。	入居者の生活歴や性格を理解し、入浴やトイレ誘導などの声かけには注意をしている。職員を替えての声かけや入居者の傾向性を考慮してケースバイケースに対応している。	管理者は外部との学び合う機会を大切にし、機会あるごとに職員に提案している。コロナ禍による実習生の受け入れやセミナー参加の機会が減っているところから自信をもってケアに取り組めるよう、多くの対人関係を持てる引き出しを身に付けて向上することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事が進まない時はその人が食べたいもの、行事などを開催する時は事前に希望のメニューを聞き、選択して食べる喜びを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番でも気分がのらない日は無理強いせず、日程を変える等している。一人一人の趣味を理解し、音楽の提供や運動の声かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る服を選択してもらったり、洗面用具を用意し自身で髪を梳いてもらう、電気カミソリで髭をそってもらう等それぞれのできる範囲で身だしなみを整えられるよう支援している。2か月に1度訪問理美容をお願いし全員ヘアカットしている。		

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事では入居者の要望を尊重し、好みの食事が提供できるよう支援している。食事が進まない方にはパンやお菓子など、好みに応じて提供できるよう対応している。また、入居者の力量に応じて食器、お盆、テーブル拭きなどを行って頂いている。	メニューは法人の栄養士が作成し、届けられた食材を湯煎して提供している。汁物ときざみ食などの利用者に合わせた形状食は職員が調理している。誕生会等の行事食は事業所に対応職員と一緒に食している。誕生日にはケーキで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を記録し把握している。各々の状態に合わせて刻みやとろみをつけて食べやすいよう提供したり、進まない場合にはパンやお菓子などを勧め少しでも摂取できるよう努めている。水分摂取量が少ない場合は好みの飲み物やゼリーなどを勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指示や助言を参考にし、各々の状態や力量に合わせて声かけや義歯洗浄、磨きの介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録に時間や排泄の有無を記載し、排泄パターンの把握に努めている。介助が必要な方には立ち上がったタイミングや毎食前、就寝前など定期的に声かけし、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄記録表に時間や排泄状況を記録するなどして排泄パターンを把握し、介助を要する利用者には一人ひとりの状況に合わせて声かけ等してトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食前に牛乳を提供したり、コーヒーにオリゴ糖を入れるなど腸内環境を整えることに配慮している。また、医師の指示による処方薬の他、各々の残存能力に応じて体操やパワートレーナー使用の声かけをし便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日数を記録し、定期的に入れるよう支援している。気が向かない場合は順番を変更し、本人の意思を汲み取るよう努めている。また、各々の入浴スタイルを尊重した上で必要に応じた介助を行い、一人で入浴希望の方にはこまめに安否確認をしている。	入浴は週2回午前中を基本に本人に合わせて対応している。本人の意向に添って同性介助や車いす用シャワーチェアを使用している。拒否の方には職員を変えたり、家族の協力を得て行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やパワートレーナー、脳トレなどを取り入れ適度な活動を促し、夜間入眠できるよう支援している。また、活動以外の時間はソファや居室でテレビを見たり臥床するなど、各々の生活習慣に合わせた休息が取れるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を把握するとともに、薬の変更がある場合は医療記録に記載し確認できるよう努めている。服薬時は各々の状態に合わせて声かけやスプーンを用いて服薬支援を行い、症状の変化はケース記録や職員間の情報共有を活かして確認に努めている。		

グッドケア・中の島（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビや折り紙、脳トレなどを提供し入居者同士やスタッフとのコミュニケーションや会話を楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍や季節風邪などもあり日常的には難しいが、何か手伝いたいという入居者の希望に沿いつつ除雪を手伝ってもらっている。また、ご家族同行であれば外出することもできる。	日常的な外出は難しいが家族の協力を得ての自宅での食事会や墓参などの支援をしている。利用者の申し出による事業所周辺の除雪手伝いをしてもらっている。今後、近隣の桜見学を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設に売店はなく、所持してもトラブルや混乱の原因になるため少額のみ所持するかご家族がお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、本人の希望で携帯電話の操作が難しい方はお預かりして電話の取次ぎをしている。携帯を所持し家族や友人とこまめに連絡をとっている入居者もいる。手紙を預かりポストへの投函をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節感のある装飾を飾り、落ち着いた空間づくりをしている。入居者が口ずさみたくなるような演歌や歌謡曲のCDを流している。	広いリビング兼食堂は日当たりが良く明るい。加湿器やクーラーが設置され温度、湿度が調整されており、定期的に換気を行っている。窓からはマラソン走者を応援したり、通学する学生の話をしたり、演歌や歌謡曲のCDに合わせて口ずさむなど、落ち着いた空間で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファ、パワートレーナーなど一人でも落ち着いて過ごせる空間があり、入居者の意向に沿って席替えなども行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人持参の写真や家具、花などを飾り自由なレイアウトで個人の空間を作ってもらっている。	居室にはクローゼット、暖房設備が設置されている。レンタル用車いすやマットの他、使い慣れた家具類や馴染みの写真、仏壇等を持ち込み、花などを飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脳トレやパズルを提供し、入居者同士で相談や質問したりスタッフがヒントを出したりと各々の楽しみ方で取り組んでいる。また、「昔はこうだった」と入居者から話を聞き学んだり会話を楽しんで頂いている。		